

編集後記

新学期が始まったかと思えばあっという間に夏休みに突入しました。今年は厳しく長い夏になりそうです。夏季期間中の学内外での皆様の仕事も厳しいものになるかもしれません。お身体ご自愛下さい。

さて、今号の一本目は、飯田巳貴氏の「近世におけるヴェネツィア共和国とシリアの輸出入貿易 1592-1609 年」です。海上輸送の中継交易から輸出向け絹織物製造業へとヴェネツィア経済が変化した 17 世紀、シリアがヴェネツィア製絹織物の原材料供給を独占的に行い、かつ完成品の販路としてもヴェネツィアと深い結びつきにあったことを「断片的な資料分析」によって明らかにしたものです。論文中には 16～17 世紀の輸出入に関わる貴重な資料が多く掲載されていますが、論証にかかわる当時の絹や織物についての記載以外にこれらの資料からさまざまなものが国を超えて行き交った様子が見受けられます。商品として列挙されたピスタチオやビスケットはどんな風に消費されたのか。キプロスの小鳥はどんな人が飼うことになったのだろうか。当時の生活の様子まで考えたいかなのでした。

次に今号の二本目、樋口淳氏による「マクルーハンの銀河系(Ⅰ)」は、「ケータイ不携帯恐怖症」という現代に生きる私たちに身近な現象から書き起こされた人間同士の関係、また社会と人間の間接的なつながり、すなわちメディアを題材とした論文です。ケータイやスマホなどの新しいメディアを埋め込まれ、新しい人間関係と社会関係を生きることになった私たちについて考えるため、半世紀前に 26 のメディアを取り上げて人間拡張の歴史をたどったマクルーハンの議論、その「銀河系」に敬意を表しつつ、これらを批判的に考察しています。今回取り上げられたメディアは、最初に人間を自然界から切り離し、サイボーグ化した「ことば」であり、自明すぎてふだんあまり考えることのない「ことば」と「メッセージ」はどう生成されるのか、深く分け入るように追究されています。さて、これを受けた次の「物語り」と「メッセージの束」の生成とはどのようなものなのでしょう。 (HH)

執筆者紹介 (アイウエオ順)

飯田 巳貴 商学部講師

樋口 淳 文学部教授

専修大学人文科学研究所月報

第 258 号 (2012. 7. 31)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 小山利彦